

令和6年度第2回北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備推進会議 議事録

令和6年12月20日(金) 13時30分～15時00分 (所要90分)

【出席委員】

(敬称略、順不同)

所属・役職	氏名
北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備推進会議会長	秋松 等
北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備推進会議副会長	都築 享子
JA新はこだて青年部八雲青年部	柴田 真吾
春日二区町内会	小川 藤芳
山越郡森林組合 代表理事組合長	牧野 仁
八雲観光物産協会 事業部会 副部会長	小西 雄一
八雲建設協会 理事	中村 兆
八雲町社会福祉協議会 会長	大野 尚司
若人の集い 事務局長	政田 翔太
一般公募	稗田 俊一
一般公募	佐藤 馨
一般公募	長谷部 修

【オブザーバー】

所属・役職	氏名
北海道渡島総合振興局函館建設管理部 道路課長 (代理)	柴田 泰孝
北海道渡島総合振興局函館建設管理部事業室道路課主査(道路)	(林 克典)
北海道渡島総合振興局函館建設管理部事業室地域調整課 主幹	清水 英夫
北海道警察函館方面八雲警察署 交通課長	林 芳由紀
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局 設備部 建築第二課長	阿部 祐介
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局 八雲建設事務所 八雲工事課長	樋口 哲哉
北海道旅客鉄道株式会社 総合企画本部新幹線計画部 主幹	渡邊 大輔

【八雲町】

所属・役職	氏名
八雲町町長	岩村 克詔
八雲町副町長	成田 耕治
政策推進課 新幹線公共交通参事	戸田 淳
政策推進課 課長	川口 拓也
政策推進課 課長補佐	宮下 洋平
政策推進課 新幹線・公共交通係 係長	岡島 孝明



議事録（要旨）

<p>開会</p>	<p>(新幹線公共交通参事)</p> <p>本日は年末の大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。政策推進課新幹線公共交通参事の戸田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速ではございますが、ただいまから令和6年度第2回目の北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議を開催させていただきます。</p> <p>はじめに、岩村町長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>町長挨拶</p>	<p>(岩村町長)</p> <p>皆さんこんにちは。町長の岩村でございます。年末の大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>この北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議では、皆さんといろいろな議論を進めてまいりました。しかしながら今日の中で、新幹線の開業がまだはっきりしていないということでもあります。2030年開業ということで、皆さんといろいろと取り組んできましたけども、これは無駄にならないと思います。来週もまた各機関に要請いたしますけども、今年度中には開業日がある程度決定できるのではないかと、そういった期待を持ちながら、2030年開業から遅れた分、もっと皆さんと知恵を絞りながら、この駅周辺の活性化を促進していきたいと思っております。今日は忌憚のないご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたして、挨拶といたします。</p> <p>(新幹線公共交通参事)</p> <p>次に、本推進会議の会長であります秋松会長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>会長挨拶</p>	<p>(会長)</p> <p>どうも皆さん、お寒い中お集まりくださいまして、ありがとうございます。本日の会議はご案内のように、新八雲（仮称）駅周辺整備計画（素案）の協議ということで、事務局から事前に資料が配布されており、ご覧いただいていることと思います。皆さん方のそれぞれの立場から率直なご意見をいただき、この素案を本日の会議で、まとめていきたいと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。</p> <p>またお忙しい中、各関係機関からもお集まりいただきまして、ありがとうございます。会議の途中でも、会議が終わった後でも結構ですので、ぜひお気づきの点がございましたら、ご指導やご助言のお言葉をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。簡単ではありますが、開催にあたっての挨拶といたします。どうぞよろしくお願います。</p>
<p>議題（1） 前回会議の振り返り</p>	<p>(会長)</p> <p>議題（1）前回会議の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>事務局の岡島と申します。本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、資料1 前回会議の振り返りということで、1ページ目になります。今回で2回目になりますが、第1回目につきましては、今年の5月14日に行っておりまし</p>

て、この中では、駅舎のデザインの推薦案の協議や、屋外駐車場、また観光案内施設、駅周辺整備・ゾーニングイメージについて、議論させていただいたところがございます。

2ページ目は、前回推進会議等の主な意見ということで、こちらは振り返りになりますとともに、町の方針について説明をさせていただきます。まず「①駅舎デザイン推薦書（案）について（報告）」につきましては、前回の会議では特段意見がなかったというところで、推薦書（案）をもとに、今年の6月14日に駅舎デザインを、町長から北海道新幹線建設局長へ手交させていただいております。次に「②屋外駐車場について」では、委員から、高架下を駐車場用の歩道として利用できないか検討してほしい、というご意見がありました。事務局からは、駐車場自体への歩道の必要性についても検討するというご説明をさせていただきましたが、委員の皆様から、歩道はあった方が良く、安全性もしっかり考慮してほしいとお話があり、当時の推進会議としては、高架下を歩道利用しない、あるいはできない場合は、歩道の必要性について十分検討のうえ取り進めるという要望をつけて、了承いただいたところです。

こちらについては、5ページになりますが、事務局として、高架下を駐車場用の歩道として利用できるかどうかについて検討させていただきました。6ページは高架下のイメージ図の平面図になります。こちらが高架橋で、こちらが駐車場用地となります。高架下で使える部分といたしましては、鉄道・運輸機構からいただいた図面でございますが、緑の部分が鉄道施設として使う可能性があるということで、歩道として使えるところが青い部分になります。歩行者の動線としては、緑の矢印のような動きになるということです。

7ページを開いていただきまして、実際に高架下を歩道として使うと考えたとき、こちらは断面になりますが、先ほど説明したとおり、こちらの高架下に鉄道施設が入ります。歩道として使える部分は、概ね3m～5.6mの幅員があるというところですが、実際にここを歩道として使う場合は、この高さが約6mありまして、さらに防雪する壁もなくて、雨や雪が吹き込む恐れがあるというところで、高架下を歩道として使う場合、いずれにしてもピンク色で示しているようなシェルターを整備する必要があるというところです。高架下を歩道として使うメリットとして、こうしたシェルターが必要ないというイメージがあったと思いますが、実際には高さがあるものから、いずれにしてもシェルターの整備が必要になるというところで、費用面ではメリットが少し小さいというところです。なので町の方針としては、2ページに書いているとおり、高架下は使用しないというところですが、以前、歩道の必要性を検討すべきとの要望がありましたので、駐車場自体には歩道を整備する方針で進めさせていただければと思っております。こちらについては方針の説明が必要だと思い、少しお時間をかけさせていただきました。

次に「③観光案内施設について」ですが、以前の資料をお出しします。新八雲（仮称）駅の配置のイメージということで、この駅舎の中に観光情報発信機能や物販機能、ギャラリー機能を置けないかということで、事務局の想定で、駅舎の中のスペースを使って、観光案内マップやパンフレットを置けないかというお話を以前させてい

	<p>ただいてたんですけども、鉄道・運輸機構さんから、一度協議が必要だというお話がありましたので、実際にJR北海道さん、鉄道・運輸機構さんと3者で協議させていただきました。</p> <p>先ほどの資料に戻り、2ページ目に協議の結果をこの矢印で記載しています。駅利用客の動線に支障のない範囲であれば、駅舎のスペースは利用OKですというお話、またいわゆる壁と一体化する場合は、設計段階から八雲町の費用負担が発生するというお話をいただいています。ただ後付けのものに関しては、駅舎の工事後の協議で問題なく、時間的にはまだ余裕がありますというお話でした。しかしながら後付けのものを設置するにしても、スペースをお借りすることなので、JR北海道さんへの賃借料のお支払いが発生するという点を3者で確認しております。これらを踏まえて、駅舎内に設置するものは基本的には後付けのもの（設計段階で費用が発生しないもの）を基本とする、という方針としております。</p> <p>次に3ページ目、「④駅周辺整備・ゾーニングイメージ」についてお示しさせていただきます。前回の資料では、事務局よりこういったゾーニング案を示させていただきました。図面左側を、基本的には何も作らないような牧場・牧草地ゾーンで、駐車場のある側のゾーンを、駐車場と何かしらの機能を備えた施設を配置する、あるいは町民も利用できるハーブ・野菜等を生産できるゾーンということで案を示させていただきました。これを示した上で、委員の皆さんからいただいたご意見を資料にまとめております。前回推進会議で出た主な意見としては、牧歌的風景を残しつつ、体験ゾーンあるいは野菜等の生産ゾーンもあって良いという意見のほか、観光客に向けた商品やサービスをブラッシュアップしていく必要があるのでは、とっかかりとしては良いのではないか、ただし維持・運営・管理にお金がかかるというご心配のご意見もありました。どちらかというと整備に前向きなご意見をいただいた一方で、3つ目以降のご意見では、八雲町に既にある様々な施設に誘導して、そこで体験や食を楽しんでもらった方が良いのではないかという意見や、駅舎から見えるところには施設は無い方が良いのではないかというご意見もありました。また5月14日の第1回推進会議に出られなかった委員からも、後日直接お電話等をいただきました。牛を放牧するというのは非常に課題が多く、生き物を扱うのは大変だというアドバイスをいただいたほか、物販や体験コーナーを設けても維持していけるのか、コスト面に関するご意見、また駐車場整備については極力コスト削減をするというお話を前回させていただきましたが、駅前の施設を整備することと矛盾しているのではないかとこのお話もいただいています。最後に、未耕作地にならないよう「牧草地」として整備すべきではないかというご意見もありました。</p> <p>様々なご意見をいただきまして、事務局としてもいろいろ悩み、方針といたしましては、新駅に隣接する施設も含めて、駅周辺への必要な機能の導入に関する検討を進めていきたいとしております。この新駅の隣接施設については、後ほど詳細に説明させていただきます。前回会議の振り返りは以上です。</p>
<p>議題(1)に対する意見等</p>	<p>(会長)</p> <p>ありがとうございました。ただいまの説明では、前回の推進会議において委員の皆</p>

	<p>さんから出された意見、またそれに基づいて事務局で検討した内容を報告しております。</p> <p>なお、隣接施設の整備の内容等につきましては、計画素案の説明の中で事務局から内容を説明いたします。この部分については素案説明の後にご質問、ご意見をいただくということで、それ以外の部分で何かご意見等がございましたらお伺いいたします。</p> <p>(委員)</p> <p>駐車場から駅へ入るときの歩道について、建物に沿った形で行けるような動線にした方が良いと思います。建物から張り出す形で歩道を整備すれば、風のかわり方も効果的になると思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>駐車場と歩道の図面を計画素案にも掲載しています。また後ほど説明させていただきますので、イメージと違いましたらご意見をください。</p> <p>(会長)</p> <p>そのほか特に意見がございませんでしたら、ただいま事務局から説明した内容のとおりに確認をしたということで、次の議題に入りますが、よろしいですか。</p> <p>(一同)</p> <p>はい。</p>
<p>議題（２） 新八雲（仮称）駅周辺整備計画（素案）について</p>	<p>(会長)</p> <p>次に、議題（２）新八雲（仮称）駅周辺整備計画（素案）について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>資料２の計画素案ということで、少し厚めの資料になっております。</p> <p>１ページに関しては、この計画の背景や目的を記載しておりますので、特段詳細には説明いたしません。２ページ以降については、新駅周辺整備方針を検討する上で、八雲町の現況を整理してございます。２ページでは人口、産業、４～５ページでは農業の状況、６ページについては漁業の水揚げ高等、要は八雲町の産業等を、数値やグラフとして整理してございます。なのでこの会議では、中身については大きくご説明いたしません。１１ページでは、主な観光地を記載しております。この辺りについても大きく説明はいたしません。もし持ち帰った後に、表現のおかしな点があればアドバイスをいただければ助かります。同様に、１４ページでは、主な特産品を整理しております。１６～１７ページでは八雲等の交通体系に関する現状を整理しています。</p> <p>１８～２２ページについては、新駅周辺の現況を記載しております。２３～２８ページでは、新駅周辺整備に関する高校生のワークショップの実施ということで、こちらについては令和５年度の推進会議で一度ご報告させていただいている内容でございますので、説明は省略させていただきますが、この周辺整備計画にも高校生の意見等をまとめたものを記載しています。</p> <p>２９ページ以降は新駅周辺整備計画になります。２９ページでは八雲町の現況や新駅周辺の現況、推進会議でいただいた意見を記載しております。３０ページでは今後の動</p>

向として何を注視すべきかを記載しております。31 ページでは、今までの現況整理を踏まえて、この駅周辺整備の基本コンセプト（案）として、「マナビのマキバ～食育をテーマに八雲の大地の恵みを世界へ発信～」ということでまとめております。こちらについては、前回の5月14日の会議でも一度ご提示した内容をこの計画に盛り込んでおります。

32 ページは、新駅周辺への導入機能ということで、どのような機能が必要かについて検討した内容を記載しております。駐車機能については具体的な整備方針を示しておりますが、それ以外の機能である飲食機能、物販機能、情報発信機能等々については、イメージを示してありまして、具体的な整備案は特に記載していない形にしております。

33 ページからは駐車機能の具体的な整備方針を示しております。駐車場については前回推進会議までにいろいろ意見交換をさせていただきまして、最終的には新駅の駐車台数を表3-1のように整理してございます。平成30年度に策定した基本計画の駐車台数102台から拡張ということで216台の一般駐車台数を設けるという方針を考えております。参考に図3-1ということで、グラフの横軸に乗車人数（駅で乗る人の人数）、縦軸にその周辺にある駐車場台数を記載してありまして、要は新幹線に乗る人が多ければ多いほど、駐車台数も多いような相関のグラフとなっております。参考までに新八雲（仮称）駅を緑色のプロット示しています。ただ一部、駅のみ駐車場ではなく道の駅等の駐車場も含んでいます。赤破線の近似直線を見ると、例えば木古内駅では乗車人数に対して駐車場台数が大幅に多いという見方になりますが、こちらは道の駅の駐車場も含んでいるためこのようなプロットになっております。こうした面もあるので、単純にこの近似直線に乗れば良いというものではありませんが、参考として載せております。

次に34 ページでは、先ほど稗田委員からもご意見がありましたが、駐車場の配置検討ということで、基本計画から拡張した駐車場案①と、本線並行案の案②の2案を検討しまして、それぞれのメリット、デメリットを記載させていただきました。基本的には案②の本線並行案の駐車場形状とするということで整理しております。

次に35 ページ、こちらが新駅駐車場の配置ということで、図面のオレンジの部分歩道としてありまして、先ほど申し上げたとおり高架下は使わないということですので、高架橋と並行し、一部屋根付きのような歩道とすることを考えております。

次に36 ページ、この駐車場に屋根を付けるか付けないかという議論をさせていただきまして、基本的に雪・雨等を防ぐために屋根は欲しいというご意見をいただきました。全駐車台数に対しておおむね半分程度の屋根を付けるパターンと、4分の1にするパターンで、概算ではありますが経費を整理してございます。全駐車台数の半分程度屋根を付けたとなると、金額としては9億1100万円の整備費がかかります。全駐車台数の4分の1としたパターンであれば6億6100万円程度まで圧縮できます。こういった金額の差がございましたので、当面は新幹線開業後の駐車需要を見極め、まずは全駐車台数の4分の1を屋根付き駐車場として整備するという方針を記載しております。また、有料化については新幹線開業後の駐車場の利用状況に応じて

検討するというので、開業当初は無料とする旨を記載しております。

37 ページ以降については、先ほど申し上げたとおり具体的な整備案については記載しておらず、各機能のイメージを記載しております。イメージとして、この機能であればこのような内容でどうか、ということを検討するという文言で、計画としては策定しようと考えています。42 ページまでが機能のお話になっております。

43 ページでは「新駅隣接施設の検討」について、計画に盛り込みたいと考えております。こちらについては資料「参考 新駅舎隣接施設イメージ」を用いて説明させていただきます。

まず、新駅隣接施設を検討するに至った経緯をご説明させていただきます。事務局では、普段新幹線を利用していないという現状がありましたので、日帰りで行ける東北新幹線等の駅を視察させていただきました。そこで感じたこととして、実際には駅舎内には必要最低限のスペースしかないということ、また駅舎の周辺には自治体が整備した施設や情報発信機能があり、それらは利用客からすると駅舎と一体化しているように見えるという部分もありました。実際に歩いたことで、新八雲（仮称）駅にもそういった施設はあった方が良く感じまして、こうしたページを付け加えております。

参考資料1 ページに記載しておりますが、基本計画を策定した際、新幹線の乗降客に対して必要なサービス機能を整理してございまして、その中では待合スペース、トイレ、コインロッカー、各種受付窓口（観光案内、レンタカー、レンタサイクル等）を記載しておりました。実際にこの新八雲（仮称）駅と同規模と考えられる木古内駅を視察しましたが、待合スペースやトイレが駅舎内に整備され、待合スペースも最低限の広さであり、駅舎内にコインロッカーや受付窓口等を配置するスペースがほとんどないという状況にありました。実際に視察をすると、入り口を入りすぐに改札口が見えるなど、基本的に駅舎内は利用客の動線のスペースが確保されている程度の広さでした。

2 ページは鉄道・運輸機構さんから提供いただいた、新八雲（仮称）駅の現時点の平面図になります。具体的に記載しておらず少しわかりにくいかもしれませんが、これを見る限り、新八雲（仮称）駅の駅舎内についても、現時点では駅利用者のための必要最低限のスペースとなるように伺えます。

隣接施設が仮にあった場合、どういった人の動線となるかについて3 ページに記載しております。矢印の実線部分が想定される動線になりますが、新駅舎の出入口を出てすぐ隣接施設に入れるような動線になってございます。赤破線の矢印は、高架下の一部を借地することで、外に出ずに施設に入ることができ、利用者の利便性が上がるという動線ですが、鉄道・運輸機構さんからは可能性としてはまだ残っているという説明がありました。しかしながら、現段階ですでに駅舎の設計が進んでおり、仮に赤破線の矢印のような動線にする際は、設計変更や工事変更が伴い、町の一部負担金が発生するというお話がございました。いずれにしても、赤破線の矢印の動線を八雲町として使用する際は、鉄道・運輸機構さんとJR北海道さんと3者で早い段階での協議が必要になります。要は利便性を取るか、費用を取るかというところです。

次に4ページ、隣接する施設に持たせる機能のイメージとしては、観光案内・情報発信のスペースやレンタカー等の受付窓口、あるいはコインロッカー・トイレ、PC作業や飲食可能な待合室と考えております。現時点で施設は2階建てを想定しておりますが、このような機能を持たせてはどうかと考えております。

最後に5ページになりますが、この隣接施設を2階建てとするメリットを説明しています。高校生ワークショップにて今後の将来を担う若い人の意見をいただきましたが、そこで出た意見としては、ガラス張りのレストランやカフェが欲しいという意見、いわゆる「映える」場所であるフォトスポットが欲しいという意見、また展望台が欲しいという意見があり、ついでには2階建ての施設も可能性があるのではないかと考えております。例えば眺望のいい2階を待合室として、企業との連携により「公式・公認」スペースとすることも、隣接施設を作ることで可能となります。そうした際には企業キャラクター等をそこに設置します。資料では「内容のデザイン」と書いておりますが、こちら「内装のデザイン」の間違いでございます。内装のデザインの一部、または全部をその連携した企業に依頼・監修してもらうということも可能かと考えております。実際に駅舎を視察した際に、若干のトラブルに巻き込まれまして2時間半程度駅で待たされたということもありましたが、そういったことも想定し、無人カフェということで、ケーキや挽きたてコーヒーの自動販売機等の設置についても考えております。また牧歌的な風景というところが大前提とあるわけですが、屋上側に大きな窓を設けることで、牧歌的な風景の眺望を確保しつつ、企業と連携したキャラクターと写真撮影ができるようなフォトスポットの設置という可能性も出てくるのではないかとこのところ、〇〇テラスや〇〇ラウンジといった名称で、企業と連携した新たな観光スポットを設置できる可能性があるのではないかと思います。イメージとしては、図のような大きなガラス張りの展望にして、キャラクターを置くような場所があれば面白いのではないかと考えております。参考資料の説明は以上となります。

それでは計画に戻ります。先ほどは43ページ、新駅隣接施設の検討について説明させていただきました。

次に44ページについては、土地利用ゾーニングということで、以前の推進会議でも示させていただきましたので具体的には説明いたしません、あえて「ペコちゃん」という文言を使わせていただきまして、ペコちゃん牧場ゾーン、観光交流・生産ゾーン、あるいはこの計画で初めて出しますが、広場・緑地ゾーンを記載してございます。

具体的には、45ページにゾーニング案を示してございます。濃い緑のペコちゃん牧場ゾーン、観光交流・生産ゾーンに関しては以前と同じようなゾーニングをしてございます。新たにこの計画に入れているものとしては、いわゆる駅裏、図面上左側にある音名川と一体として、薄緑のゾーンを広場・緑地ゾーンということで、駅周辺の豊かな自然を感じられるよう、将来的な環境整備を検討ということで記載してございます。新幹線駅周辺の豊かな自然環境を楽しめる広場・緑地空間や、八雲町の文化を体験できる空間等の整備を将来的に検討していくゾーンということで、新たに設けております。

	<p>こういったゾーニングを踏まえ、47 ページにパースを掲載しております。前回提示させていただいたパースから若干変更しております。変更箇所といたしましては、ペコちゃんのキャラクターを追加したほか、駅舎出入り口に白い箱がありますが、2階建ての隣接施設を想定した場合のイメージを描いております。</p> <p>最後に、48 ページに今後の課題を記載しております。記載しているとおりではございますが、最後の【社会経済状況の変化に応じた計画の見直し】をご説明させていただきますと、当初の開業時期である 2030 年度であれば、この計画策定から 6 年後の開業予定であったというところですが、開業延期によりこの計画策定から 10 年程度は経過することが想定されます。昨今の社会情勢、世界情勢の変化や、技術革新も激しいというところもありまして、この計画の内容については適切な時期に柔軟に見直していく旨を、締めとして記載しております。柔軟に状況を見ながら、八雲町にとって最適な駅周辺整備計画になるように見直していくことが必要だと考えております。</p> <p>この素案の説明は以上になりますが、この推進会議で了承いただいた後は、年明け 1 月に議会の常任委員会で報告させていただき、その後 2 月のパブリックコメントを受けて計画策定といたします。この計画に対して、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。</p>
<p>議題(2)に対する意見等</p>	<p>(会長)</p> <p>今までの推進会議で協議してきた内容に基づいて、この素案が出されております。ただ事務局の説明のように、隣接施設についてはこれまで説明しておりませんでしたので、別立てで説明をして、これを素案に盛り込みたいという提案でございました。</p> <p>協議につきましてはできるだけこの計画素案の部分、いわゆる29ページ以降の第3章、新駅周辺整備計画の内容に絞ってご質問、ご意見等を受けたいと思っております。</p> <p>ご意見を受ける前に、「参考 隣接施設イメージ」の3ページについて、高架下を借地するように変更した場合は町の負担が発生すると、先ほど事務局から説明がありました。本日は鉄道・運輸機構さんにご出席いただいておりますので、負担がどの程度になるか、わかる範囲で結構ですので、ご説明をお願いしたいと思います。</p> <p>(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)</p> <p>鉄道・運輸機構の阿部と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>先ほどのご質問は、高架下を利用した場合の費用負担に関するご質問だったと思いますけれども、高架下空間については「資料1 前回推進会議の振り返り」に記載のとおり、鉄道施設が配置されるというところがありますので、施設を設けることは難しいです。またどのような都市施設が来るかにもよりますが、駅舎と合築となると、やはり面積が大きくなってくる。例えば面積が大きくなると消防施設が増える。そうすると、やはり町に負担を求めることになっていきますので、ご了承くださいと思います。</p> <p>(会長)</p> <p>要するに内容によっては、いろいろと変わってくるということですか。例えば、駅舎については実施設計が進められておりますよね。</p>

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

そうですね。設計についても今年度固めるべく、今最終の締めを進めております。

(会長)

もしこの施設から出入りをするような形になると、設計変更が伴うわけですね。

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

そうですね。設計の手直しがかかりますので、それほど大きくはありませんが、数百万円、数十万円は掛かります。

(会長)

設計が進行中のなか、急に手直しをするということになると、いろいろな手続きや費用がかかってくる。そのような理解でよろしいでしょうか。

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

はい。

(会長)

ありがとうございます。

そういったことも含めてであります。委員の皆さんから何かご意見、ご質問をいただきたいと思います。

(委員)

駅の高架下について、参考資料3ページの図面では「駅後方室」とありますが、これはどのような利用がなされるのでしょうか。

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

駅後方室は、駅員さんが仮眠や打合せをするなど、駅員さんが使われる部屋になっています。

(委員)

では、そんなに広くはないんですね。

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

はい。イメージでいうと、図面の柱と柱の間隔が約12mなので、それほど大きくはないと思います。

(委員)

駅後方室を少しずらして、その分を広く利用することはできないのでしょうか。

(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)

JR北海道さんとの協議にもよりますし、セキュリティや使い勝手といった面もありますので、難しいかもしれません。

(委員)

わかりました。ありがとうございます。

45ページにゾーニング案がありますが、「ペコちゃん牧場ゾーン」は現在農家の方に利用されているんですか。デントコーンなどが栽培されていたと思います。それとも耕作地は放棄されているのでしょうか。

(事務局)

現時点で耕作はしている状況でございますが、「ペコちゃん牧場ゾーン」に関して

は町で土地を取得したいと考えておりました。購入後については記載しているとおり、基本的には牧場にしたいと考えております。

(委員)

なぜ確認したかという、現状ではオオハクチョウの休息地になるんです。工事中にもだいぶ来ていまして、このようにオオハクチョウが駅の近くで見られる場所がないんです。それを考えると、現状の耕作地を維持しておいた方が良いのではないかと思います。

(事務局)

ご意見として参考にさせていただきますが、現在耕作しているからオオハクチョウが来ているものなののでしょうか。牧場にすると来なくなってしまうのでしょうか。

(委員)

そうです。休息地として利用しているので。

(会長)

デントコーン畑があるからオオハクチョウが来られているという認識でしょうか。事務局でそのあたりも参考に検討していくという事でよろしいでしょうか。

(委員)

現状からできるだけ変わらないようにしていただきたいです。

(会長)

要望という事で承りました。

(委員)

45ページと47ページの図面を見ながら質問させていただきます。

47ページのパースのイメージで整備されるという事でしょうか。現在この場所は町が所有しているのですか。

(事務局)

全て民有地になっています。

(委員)

将来的に町が購入し、このような形にしたいという意向があるのでしょうか。

(事務局)

このような形で検討を進めていきたいと考えています。ただ現時点で、全くこのパースの通りに整備していくという想定はしておりません。先ほど隣接施設への導入機能を説明させていただきましたが、こちらにいろいろな機能が入るのであれば、パース上の建物も小さくなる、あるいはなくなる可能性ももちろんございます。今の段階ではこのパースと通りにするという意向は無く、あくまでも計画上であり、このような形で検討していくというところです。

(委員)

このパースで、駅へ向かう道路の左側の広い部分ですけれども、まずペコちゃんのオブジェは要らないと思います。それからサイロは、いかにも牧歌的という雰囲気があるのだと思いますが、ただ塔を建てるだけなののでしょうか。

手前の「ペコちゃん牧場ゾーン」について、前回の会議でもお話ししたと思います

が、大体5月から11月ぐらいまでしか牛を放せません。牛を放すということ、生き物を扱うということは、餌を食べるということもあるし、逃げることもあります。そのようなときに管理する人、管理する建物、それから餌です。この青草だけで全て済むものなのかどうか。このように色々なことを考えたときに、駅前に広い牧屋があるというだけで私は十分だと思います。

いわゆる商業施設や写真映えのするところは、ここへ来るまでにいくらでもあるわけです。八雲だから、北海道だからということイメージアップで持っていくのであれば、ここにはむしろ何も置かないで、広い空間というものをプッシュしてはいかがでしょうか。

木古内駅をご覧になったというお話ですが、確かに駅舎の中は利用者の最低限の利便性を図るということで十分だと思いますし、この隣接施設についても、確かに受付などの機能を持たせる意味ではあった方が良くと思いますが、極力いろいろなものは作らないという方向で進めていただいた方が良くと思います。そして牧歌的な風景を見るのであれば、道路を出てちょっとカーブを曲がれば、すぐに放牧されている牛がいますし、町内には色々な体験施設もある。そういうところを十分に活かしていった方が良くと思います。

また青森の方から何年前に、新青森駅では青森市街地へ観光客を誘導するように考えているので、新青森駅の周辺には余計なものは作らないと聞いたことがあります。新青森駅は一時、始発終着駅でした。今の新函館北斗駅もそうです。必ず人の乗り降りがあります。新八雲（仮称）駅の場合はそうではなく、通過駅の一つです。だからこの新幹線駅に、八雲のあらゆる可能性を持たせ、この駅だけに責任を負わせるものではないと思います。むしろ町内や道南の他地域に、こういう施設がありますよ、こういう体験ができますよということを十分に案内できる形にさせていただいた方が良くのではないかと思います。

企業の協力を得るというお話もありますが、このようなことに興味を示している企業はあるのでしょうか。

（事務局）

沢山のご意見ありがとうございます。企業の話に関しては、具体的にはまだ何もありません。ただ現在連携している企業もあるものですから、今後検討を進めるのであれば、企業ともお話をしていきたいということを考えていました。

牛のお話については、私も元酪農でしたので、十分におっしゃることは理解しております。ただ今回の素案につきましては、駅周辺整備計画すべてを具体化するところにまで至っておりません。基本計画策定時からの「牧場の中にある駅」というコンセプトを踏まえ、今回もペコちゃん牧場というイメージ作りをしてきました、牛を放すということも難しいのではないかと思いますのですが、何らかの牧場というイメージを感じとれるような駅周辺整備ができたらと考え、今回の素案のような形にさせていただきました。

新青森駅のお話もありまして、街中に誘導ということで、新八雲（仮称）駅も二次交通が全くない場所ですので、今後考えていかなければならないと思っていますし、

二次交通への乗り換えの際の待ち時間も生じてくる、その間に観光情報の案内ができればという意味合いも込めて、隣接施設についても考えていきたいと思っております。

(委員)

二次交通の話が出ていましたが、新幹線から降りたところで、目的地に行く手段がタクシー、バス、レンタカー等というパターンになると思いますが、では10年後にバスを新八雲（仮称）駅まで引っ張ってこられるかと言ったら、今ですら運転手が足りないのに、どうするのかという心配があります。ただその上で、乗り換えまでの時間がたっぷりあると想定されることを思うと、何か楽しめるものがあったとしても良いという気持ちもあります。今回は開業時期が延びているので、本州から北海道へ新幹線で来る場合の目的や二次交通手段や、ポツンとある駅に降りて実際に観光客は何を楽しみたいのかなど、色々な情報を改めて調査しておかなければ、なかなか戦略を検討していくことは難しいと思います。もちろん建物を建てれば整備費や維持管理費もかかるので、できれば整備したくないという気持ちもありますが、ひょっとしてそのような可能性があるのであれば、楽しめるものがあったとしても良いのではないかと思います。

駅周辺整備と話が逸れてしまうかもしれませんが、本州の新幹線では、走行中に数字の「727」だけが書かれている看板が見えるんです。興味本位で数字を調べるとその企業がわかるという戦略です。八雲町に興味を持ってもらう戦略として、本州を走行中に大きな看板があって、そこに謎の数字が掲載してあって、調べると八雲町の観光情報が出てくるなどを、勝手ではありますがイメージしています。10年後だと結局、紙からスマホ、もっと違う媒体に移行していると思います。そうするとパンフレットを設置することが本当に良いのか、もっと別の手段へと大きく変わると思いますので、ゆとりを持って検討していく必要があると思います。

(会長)

31ページの整備方針3「まちなかや観光地までの交通ネットワークの形成」では二次交通の整備等について記載されておりますが、こちらに対して、もっと充実させるためのご意見かと伺いました。事務局の方で回答はありますか。

(事務局)

開業が延びたことにより、色々と調査・勉強等をして、この八雲町にあったものが何かを探す時間があるというところで、まだ要求段階ではございますが、来年度に公共交通の先進地等への視察を考えています。これは駅に対する二次交通という側面もありますし、八雲町全体の公共交通の体系を検討するという側面もあります。ドライバーの高齢化問題があるなか、自動運転やMaaS、SAVSといった交通体系もございますので、そうしたところにしっかりアンテナを張り、情報を得て、この八雲町に何を適用させるか、どのような駅の二次交通にするかということ、来年はしっかり学んでいく年にしたいと考えてございます。

開業が10年先になり、紙媒体ではなくスマホが当たり前になるほか、現在でも既にQRコードを読み込むとパンフレットが出てくるといったものもありますので、そういったところも含めて、調べるだけではなく実際に足を運んでみるのが非常に大事だ

と考えておりますので、こうしたことを行っていききたいと考えております。

(委員)

パース上のペコちゃんの人形は、恐らくフォトスポットの位置の目印として配置されたのだと思います。ペコちゃんの人形が、駅の壁にある「JR新八雲（仮称）駅」という表示に近いと、同じ画面内に映るよう撮影できるかもしれません。

(会長)

貴重なご意見をありがとうございました。フォトスポットに関するご意見をいただきました。そのほかご意見等はございますか。

(委員)

観光交流・生産ゾーンについて、旭川市では北邦野草園という、地域に生育している色々な植物が見られる植物園があります。同じように、八雲町の草花を確認できるゾーンを作っても良いのではないかと思います。季節別に八雲町の植物が見られるようになるかと思えます。

また広場・緑地ゾーンでは、観光客のほか、地元の小中学生が八雲町の自然に触れられるような整備を考えた方が良いのではないかと思います。鮭が遡上する様子も見えますし、それを狙うオオワシも観察できます。そのような場所としてうまく活用していけば、他のまちにないようなものが得られると思えます。地元の教育と合わせて、八雲町の自然を紹介するような場所にされてはどうかと思えます。

(会長)

アイデア提供ということで承りたいと思えます。その他ご意見等はございますでしょうか。

(委員)

45ページのゾーニング案で、白破線で囲まれている範囲は、民間の土地と考えて良いのでしょうか。現在民間の建物があると思われませんが、八雲町の市街地から来た時に、一番初めに新幹線の駅が見えるのではなくて、この建物が邪魔になり、駅が見え辛いのではないかと思います。この場所の購入予定はあるのでしょうか。

(事務局)

現状ある建物に関する移転保障は、町として現段階では考えてございません。今ある建物は開業後も同じように残ることを想定し、こういったパースにしてございます。

(委員)

多少駅が見え辛くなっても、このままでいこうという考えでしょうか。

(事務局)

事務局としては、駅を見せるのではなく、駅を降り立った際の風景を見せるようなイメージを持っております。フォトスポットのお話もありましたが、キャラクターと駅を撮るのではなく、キャラクターと広大な牧場を撮ってもらうというイメージでございました。ただ、ご意見については承らせていただきます。

(委員)

新幹線の高架下利用について再度確認したいのですが、投雪開口設置範囲は必ず

	<p>ことはできないんですか。</p> <p>(委員)</p> <p>ずらす場合、線路もずらさなければならないと思います。</p> <p>(鉄道・運輸機構 阿部建築第二課長)</p> <p>線路の脇にずっと穴が開いていて、雪を落とすという構造をしていますので、おっしゃる通り、線路がある場所には基本的に雪を落とすことになります。</p> <p>(会長)</p> <p>ただいま委員の皆さんから、いろいろと貴重な意見がございました。</p> <p>この計画素案につきましては、事務局から説明があったように、今後の経済情勢や社会情勢の変化、またいつ開業できるか分からないという状況の中で、柔軟に見直しをしていくということを記載してございます。</p> <p>良い駅周辺整備が果たされるよう、本推進会議での意見を十分参考にさせていただくように事務局に要望するとともに、この素案を本推進会議として承認するという形でまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(一同)</p> <p>はい。</p> <p>(会長)</p> <p>ありがとうございます。では、そのように決定させていただきます。</p>
閉会	<p>(会長)</p> <p>今日は、皆様のご協力もございまして、この駅周辺整備計画素案を無事にまとめることができました。本当にありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の推進会議を閉会といたします。どうもありがとうございました。</p>